



あゆみ作業所での回収されたキャップの分別作業や粉碎作業

# 特集

## 環境に人にやさしいエコキャップ運動の輪

# ハンディ&エコキャップ支援事業

「ペットボトルキャップの回収に協力しているけど、これって一体どのように役立っているのかな？」と思ったことはありませんか？ 今回は「ハンディ&エコキャップ支援事業」を取り上げ、みなさんの協力がどんな実を結んでいるのか紹介します。

### 1. ハンディ&エコキャップ運動とは

市では環境に人にやさしいエコ活動の一環として、平成20年6月から「エコキャップ運動」や「プルトップ回収運動」を開始し、2年近くがたちました。

「エコキャップ運動」とは、可燃ゴミとして処理されていたペットボトルのキャップを回収し、資源リサイクルをすることにより、二酸化炭素を削減するとともに、キャップを粉碎、売却した収益金で途上国の子どもたちの命を救うためにワクチンを贈る運動です。横浜の女子高校生の発案で全国に広がっています。

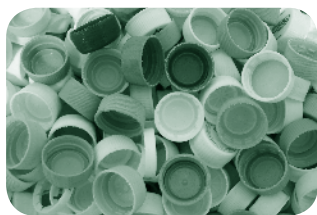
「プルトップ回収運動」とは、缶飲料のプルトップが以前は缶本体から外れるように作られていたため、プルトップの散乱が

環境や野鳥などへ影響を与え、問題となっていたことから、回収運動が全国に広がり、回収した収益金で車イスを贈るシステムとして定着したものです。しかし、缶飲料のプルトップの改善（分離できないタイプへの変更）により環境への影響が少なくなりました。最近では、スチール缶のプルトップを回収する運動として再び盛り上がりを見せています。（※1）

市障害福祉課では、これらエコキャップ運動などの支援に、ハンディキャップ（障がい）のある人たちの就労支援を組み合わせ、**「ハンディ&エコキャップ支援事業」**と命名し、支援活動をしています。この事業は、全国でも珍しい取り組みとして新聞やテレビでも紹介されました。

多くの人にこの運動に協力いただき、平成22年3月31日までの回収で、総回収量が11トン（約580万個）を超えました。

ポトルキャップ1000個（約2キログラム）で一人分のポリオワクチンを提供できます。これまでで、2800人分ものワクチンを提供でき、ゴミとして処分されていたボトルキャップやスチール缶飲料のプルトップから、多くの子どもたちの命を救えたことに感謝しています。市では、東江市の人口と同じ12万人の提供を目標としています。



ポリオ：患者や感染者の便、汚染された飲食物などを通して、ポリオウイルスが口から体内に侵入し、発熱や頭痛、時に急性麻痺症状を起こす感染症です。

※1 アルミ缶・スチール缶にかかわらず、プルトップの部分はアルミでできています。アルミ缶の場合は缶ごと回収してリサイクルできますが、スチール缶のほうは無駄になってしまいます。そこで、スチール缶から引きちぎったプルトップ部分を回収しています。





昇降口にキャップ回収箱を設置している永源寺中学校



あゆみ作業所からの感謝状を受け取る玉緒小学校環境委員

## 2. 一人ひとりのエコキャップ運動

4月16日現在で、151のグループ・企業・店舗・団体がハンディ&エコキャップ支援事業に参加されています。ここでは、その取り組み事例を紹介します。

◆ 玉緒小学校では、環境委員会が中心となり、ペットボトルのキャップ回収に取り組みられています。校内の各学年ごとの計6か所に回収箱を設置し、全校児童一丸となってエコキャップ運動に協力されています。

1月20日には、集められたキャップ38キログラムをあゆみ作業所に寄付し、そのお礼に感謝状を贈られました。

◆ 永源寺中学校では、ボランティア委員会が中心となって、年間通してボトルキャップを収集するなど活発に活動されています。昇降口にキャップの収集箱を設置し、毎月の収集状況を壁に張り出して全校生徒に成果の報告をされています。

平成21年12月21日には、地元障害者支援施設たけのこ福祉作業所（和南町）に98キログラムのキャップを寄付されました。

### 永源寺中学校



集めたキャップをたけのこ福祉作業所に渡す永源寺中学校のボランティア委員



### 玉緒小学校



集めたキャップをあゆみ作業所に渡す玉緒小学校の環境委員





▲別の入れ物に移します。



▲粉碎されたキャップはこのようになります。



▲キャップ回収ボックスは、市内の20か所の障害者支援施設などに設置しています。



▲いっぱいになったら、粉碎されたキャップを取り出します。

## あゆみ作業所の作業風景

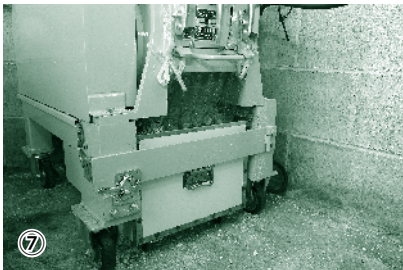


谷道世副施設長

障がいのある仲間の仕事になることから、このような取り組みをさせてもらっています。障害者施設といえども、みなさんのお役に立ち、一緒になって住みよい社会を作っていくという思いは同じですので、エコを通じてそれが実現できればと思っています。エコキャップに賛同し、協力いただける人がどんどん増えることにより、私たちの思いも達成できると思っていますので、市民のみなさんおよび企業さんのご協力をよろしくお願いします。



▲キャップを白色と色つきにわけたり、貼られているシールをはがしたりします。



▲粉碎されたキャップは粉碎機の下部に溜まっていきます。



▲シールをはがし、白と色つきにわけられたキャップ。



▲流れやすいようにならしたり、キャップ以外のものを取り除いたりします。



▲今年の1月にあゆみ作業所に設置された高速処理粉碎機。



▲キャップのつまった袋を高速処理粉碎機まで運びます。



リサイクルできないキャップ、ビンのキャップ、プラカップ、ビー玉などが入っています。取り除く手間だけでなく、粉碎機の故障に繋がる可能性もありますので、ご協力いただく際はペットボトルキャップ以外のものは回収箱に入れないようにお願いします。

また、市内で回収されたキャップだけでなく、リサイクル企業と粉碎業務の契約を結び、そこから送られてくるキャップも処理することで、毎月安定した量の粉碎作業をされています。

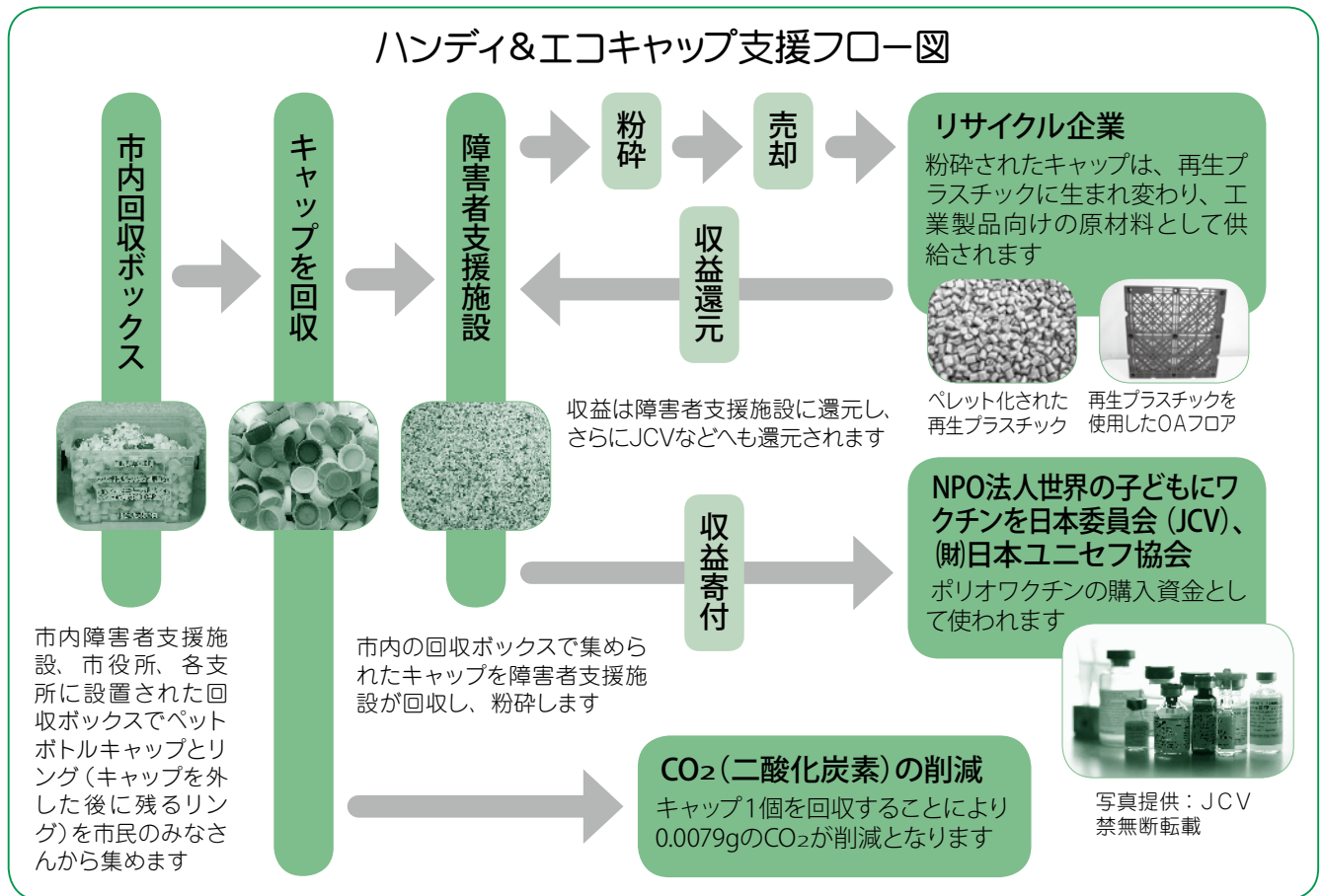
3. エコキャップ運動と福祉貢献

市内の9か所の障害者支援施設に通所する人たちが、キャップ回収や分別を行い、そのうちあゆみ作業所（平田町）とあかね（小脇町）では、粉碎作業もされています。今回は、あゆみ作業所での作業を紹介します。

ここでは、障がいのある人たちの社会参加の一環として、キャップ回収のために地域を回ったり、施設内でキャップの分別や粉碎をされています。

また、市内で回収されたキャップだけでなく、リサイクル企業と粉碎業務の契約を結び、そこから送られてくるキャップも処理することで、毎月安定した量の粉碎作業をされています。

■記号の説明・・・ 問=問い合わせ IP=IP電話



また、スチール缶飲料のプルトップはアルミでできており、回収することで再利用ができるため、市内のアルミ企業に1キログラムあたり70円(※2)で売却され、ペットボトルキャップと同様に、そのうち35円を給料とし、35円を途上国へのポリオワクチンの提供にあてられています。

なお、売却された粉砕キャップは、過熱処理によりリサイクルペレットに加工されて、再生プラスチックとして販売され、資源リサイクルされています。

#### 4. 資源リサイクル、福祉貢献、国際貢献の三方よし支援事業

ペットボトルのキャップの材質は、ポリプロピレンでできているため、回収すれば再生プラスチックとして再処理が可能です。粉砕されたボトルキャップは、市外のリサイクル企業に1キログラムあたり35円(※2)で売却され、そのうち25円を障がいのある人たちの給料とし、10円を途上国へポリオワクチンを提供するため、NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)への寄付や、(財)日本ユニセフ協会の支援ギフト(※3)購入にあてられています。



写真提供 JCV:禁無断転載

あなたの協力がワクチンとなって、子どもたちを救うことに繋がります

**障害福祉課**  
 ☎0748-2415640  
 IP0501580115640

主に、公園のベンチ、OAフロア、車のプラスチック製品などに使われています。

キャップおよびプルトップの回収による資源リサイクル、障がいのある人たちの社会参加や就労支援の**福祉貢献**、途上国の子どもたちの命を守る**国際貢献**の**三方よし支援事業**に市民のみなさんのご協力をよろしく願います。

※2 樹脂およびアルミの取引価格により変動します。  
 ※3 現金での支援ではなく、ユニセフの支援物資を子どもたちに贈る支援方法です。3,800円で200人分のポリオワクチンを購入できます。